【商業科】　３年次　【選択】科目「管理会計」授業のシラバス

１　概要

教科名	商業	**科目名**	管理会計	**単位数**	２（７０）
科目の目標	管理会計に関する知識と技術を習得させ，経営戦略の重要性について理解させるとともに， 経営管理に必要な情報を活用する能力と態度を育てる。				
教科書(出版社)	管理会計（実教出版）		**副教材(出版社)**	管理会計問題集（実教出版）	

２　学習の方法

⑴　予習について

予習については特に必要はありませんが、教科書を読んでおくと理解が深まるでしょう。

⑵　授業について

２年次で学習した「原価計算」の知識が必要となってきます。しっかり思い出しておきましょう。

⑶　復習について

授業で取り扱った内容の復習はしっかりしましょう。

〈学習アドバイス〉
管理会計は日商簿記１級の範囲でもあるので非常に難易度は高いです。
授業でわからなかったところは積極的に教科担任に聞きましょう。

３　評価について

⑴　評価の観点

観　点	趣旨
①　関心・意欲・態度	管理会計に関心を持ち，その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに，管理会計から得られる情報を活用する態度を身につけている。（授業に対する姿勢や提出物の提出状況を評価します。）
②　思考・判断・表現	管理会計における各種の計算・分析方法や原価情報の活用などについて，なぜ，そのように行うのかなど自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，表現する能力を身につけている。
③　技能	管理会計における各種の計算・分析方法に関する基礎的・基本的な技術を身につけ，管理会計から得られる情報を的確に活用することができる。
④　知識・理解	管理会計に関する基礎的・基本的な知識を身につけ，管理会計の基礎理論及び基本構造について理解している。（教科書に出てきた知識が理解できているかどうかを評価します。）

⑵　評価の方法（以下観点①～④は「⑴　評価の観点」と対応する）

評価材料 / 観　点	割合	定期考査・確認テスト		確認テスト	提出物	課題
①　関心・意欲・態度	１０%	△	関心を持っているかを問うことがあります。			◎
②　思考・判断・表現	３０%	◎	出てきた計算結果を基に分析できるかどうかを問います。	○	○	
③　技能	３０%	◎	各種の計算をおこなうことができるかどうかを問います。	○	○	
④　知識・理解	３０%	○	管理会計に関する基礎的・基本的な知識を問います。	○	○	

〈担当者からのメッセージ〉
　管理会計は経営者の意思決定のための会計です。
理解すれば、企業の意思決定に関わることができます。
その分難易度も高いですが、やりがいも十分あると言えるでしょう。
　また、１０月には全商会計実務検定の管理会計部門を受験することができます。

【商業科】　３年次　【選択】科目「管理会計」授業のシラバス

４　授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考査等
前期 4	第１編　管理会計の基礎 第１章　管理会計の意義と目的	6	1　管理会計の発展経緯 2　管理会計の目的 3　財務会計と管理会計 4　マネジメント・コントロール・システム	① ④ ② ②	管理会計の発展経緯に関心を持つことができる。 管理会計の目的および二つの大きなプロセスを理解できる。 財務会計と管理会計の相違点を整理することができる。 マネジメント・コントロール・システムの意味を理解できる。	
	第２章　管理会計と原価計算		1　管理会計と原価計算の関係 2　管理会計に有用な原価情報	② ④	管理会計と原価計算の関係について整理することができる。 変動費と固定費の意味，さらに管理可能費と管理不能費について理解できる。	
5	第２編　直接原価計算 第３章　直接原価計算	8	1　利益計画と直接原価計算 2　直接原価計算の特徴 3　全部原価計算と直接原価計算 4　固定費調整 5　セグメント別の損益計算	④ ④ ③ ④ ③	利益計画と直接原価計算の関係について理解できる。 直接原価計算の特徴について理解できる。 全部原価計算と直接原価計算による損益計算書を作成できる。 固定費調整の意味と方法について理解できる。 セグメント別の損益計算を作成できる。	
	第４章　直接標準原価計算		1　直接標準原価計算の意義と特色 2　直接原価標準の設定 3　直接標準原価計算における差異分析 4　直接標準原価計算による損益計算書	④ ④ ② ③	直接標準原価計算の意義と特色について理解できる。 直接原価標準の設定について理解できる。 直接標準原価計算における差異分析の方法について理解できる。 直接標準原価計算による損益計算書を作成できる。	
6		8				前期中間考査
	第３編　短期利益計画 第５章　短期利益計画と原価予測		1　原価予測とは 2　原価分解 3　原価分解の方法	④ ③	原価予測の意味を理解できる。 原価分解の意味を理解し，その方法について習熟できる。	
7	第６章　CVP 分析と損益分岐点	8	1　短期利益計画における CVP 分析の役割 2　損益分岐点と利益図表 3　損益分岐点販売量と損益分岐点売上高の計算 4　安全余裕率 5　目標利益の達成に必要な売上高の計算	④ ② ③ ③	短期利益計画における CVP 分析の役割について理解できる。 損益分岐点の意味を利益図表を用いて理解できる。 損益分岐点販売量と損益分岐点売上高の計算について習熟できる。 安全余裕率および目標利益の達成に必要な売上高の計算について習熟できる。	
	第７章　感度分析		1　感度分析の意義 2　感度分析の進め方	② ④	感度分析の意義とその進め方について理解できる。	
8	第８章　最適セールス・ミックスの決定	4	1　最適セールス・ミックスと利益の最大化 2　制約条件が一つの場合の最適セールス・ミックスの決定 3　制約条件が複数の場合の最適セールス・ミックスの決定	④ ② ②	最適セールス・ミックスと利益の最大化について理解できる。 制約条件が一つの場合の最適セールス・ミックスの決定の仕方について理解できる。 制約条件が複数の場合の最適セールス・ミックスの決定の仕方について理解できる。	
	第４編　企業予算 第９章　企業予算の編成		1　予算編成と予算統制 2　企業予算の体系と種類 3　予算期間と予算管理の支援部門 4　企業予算の編成プロセス 5　損益予算の編成 6　財務予算の編成 7　見積損益計算書と見積貸借対照表	④ ④ ④ ④ ③ ③ ③	予算編成と予算統制の意味について理解できる。 企業予算の体系と種類について理解できる。 予算期間と予算管理の支援部門について理解できる。 企業予算の編成プロセスの概要を理解できる。 損益予算の編成について習熟できる。 財務予算の編成について習熟できる。 見積損益計算書と見積貸借対照表の作成ができる。	
9		8				前期期末考査
後期 10	第１０章　予算統制	10	1　予算統制の意義 2　予算実績差異分析 3　資金運用表の利用 4　予算報告書の作成と利用 5　予算統制のタイミング	④ ③ ② ④	予算統制の意義について理解できる。 一連の予算実績差異分析の方法に習熟できる。 資金運用表の利用および予算報告書の作成と利用について理解できる。 予算統制のタイミングについて理解できる。	
	第５編　経営意思決定と管理会計 第１１章　経営意思決定の意義とタイプ		1　経営意思決定の意義 2　経営意思決定のタイプ	② ②	経営意思決定の意義について理解でき，経営意思決定のタイプを理解できる。	全商会計実務検定
	第１２章　関連原価分析		1　関連原価と無関連原価 2　関連原価分析の特徴 3　代替案の評価 4　関連原価分析の留意点	④ ② ② ②	関連原価と無関連原価の意味を理解し，関連原価をタイプ別に理解できる。 関連原価分析の特徴を整理できる。 代替案の評価について，各種決定問題の例題をとおして習熟できる。 関連原価分析の留意点をまとめることができる。	
11		10				
	第１３章　設備投資の経済性計算		1　設備投資の経済性計算の意義 2　設備投資のタイプ 3　設備投資と長期利益計画 4　設備投資の経済性計算の方法 （１）貨幣の時間価値を考慮しない方法 ５　設備投資の経済性計算の方法 （２）貨幣の時間価値を考慮する方法 ６　複数の代替案が存在する場合の経済性評価	④ ② ③	設備投資の経済性計算の意義について理解できる。 設備投資のタイプを理解し，長期利益計画との関係を指摘することができる。 各種の設備投資の経済性計算の方法について，例題をとおして習熟できる。	後期中間考査
12		6				
	第６編　戦略的原価計算 第１４章　活動基準原価計算		1　管理会計の発展経緯 2　ＡＢＣの基本構造 3　活動基準原価管理	② ② ②	ABC の発展経緯とその基本構造を理解し，例題をとおして習熟できる。 活動基準原価管理を理解し，例題をとおして習熟できる。	
1	第１５章　品質原価計算	2	1　品質原価計算の意義 2　品質原価計算の目的 3　品質原価報告書 4　品質原価の分析	④ ④ ③ ③	品質原価計算の意義を理解し，各種品質原価について理解できる。 品質原価計算の目的について理解できる。 品質原価報告書の作成に取り組むことができる。 品質原価の分析について例題をとおして理解できる。	
	第１６章　ライフサイクル・コスティング		1　ライフサイクル・コスティングの意義 2　ライフサイクル・コスティングのステップ 3　製品のライフサイクル・コスティング	④ ② ①	ライフサイクル・コスティングの意義を理解できる。 ライフサイクル・コスティングのステップについて，例題をとおして習熟できる。 製品のライフサイクル・コスティングについて関心を持つことができる。	
2						
		計 70				
3						

※　観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。
※　授業計画は進度により前後することがあります。